

News & View

SAGA UNIVERSITY HOSPITAL

第14号

発行

佐賀大学医学部附属病院  
広報委員会

# 佐賀大学病院ニュース

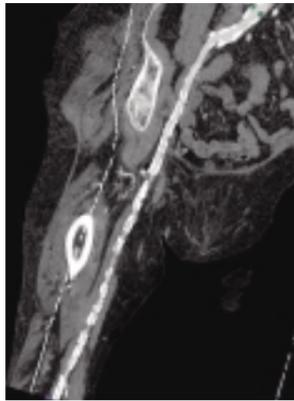
〒849 8501 佐賀市鍋島五丁目1番1号 TEL 0952 31 6511(代)

病院ホームページ <http://www.hospital.med.saga-u.ac.jp/hp/>

## 先進画像診断システムのご紹介

平成20年度予算で先進画像診断システムが導入されました。これは、最新のCT装置、歯科用X線撮影装置、歯顎顔面用コンビームCT装置、消化管造影X線透視撮影装置、乳房X線撮影装置、胸部・骨部X線撮影装置、外科用ポータブルX線透視撮影装置（血管撮影対応）、ガンマ・カメラ装置（シンチグラム検査用）と、多様な撮影装置から構成されています。なかでも今回のCT装置は、1回転0.3秒の高速で同時に64スライス画像の撮影ができ、精密な画像診断に加えて冠動脈を含む多種多様な臓器・疾患の立体的画像再構成や血管の展開画像作成が可能です。更に、コンピューターによる画像再構成作業が院内20箇所に配置した端末でも可能となり、外科手術計画等に威力を発揮しています。また、歯顎顔面用CT装置では歯列や埋伏歯の立体的な把握が可能であり、シンチグラムでは臓器の血流や機能を画像として表すことができます。

以下、主な装置と代表的な画像を紹介いたします。



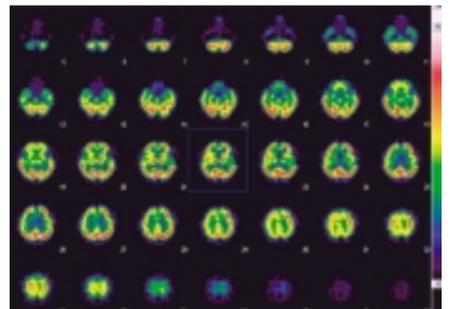
下肢動脈 CT 展開画像



脳動脈 CT 立体再構成画像



ガンマ・カメラ装置



脳血流シンチグラム



64スライス CT 装置



腹部 CT 正面再構成画像



歯顎顔面用 CT 装置



顎骨 CT 立体再構成画像

### 冠動脈CT検査について

昨年末、最新128（64列X2）スライスCTが導入され、冠動脈CT検査を当院でも実施できるようになりました。



心臓 CT 立体再構成画像

近年、心臓を栄養する冠動脈の動脈硬化を原因とした疾患（狭心症、心筋梗塞）が増加するなか、迅速にかつより低侵襲的な画像診断ができる冠動脈CT検査の有用性は、重要度が増しています。今まで心臓カテーテル検査や入院について躊躇されていた患者さんや、狭心症を否定するために有用な検査です。また冠動脈形成術やステント留置術を受けた患者さんの経過確認にも有用です。今後の可能性として無症状の段階での冠動脈ブランク早期発見、治療により急性冠症候群の発症予

防にも期待されています。

冠動脈CT検査は外来にて、短時間で検査を終了することができます。造影剤を腕の静脈から注射し検査を行う一般の造影CT検査と同じです。ご存知のように、心臓は常に拍動しておりますので検査では脈拍の状態や息止めに影響を受けます。このためより綺麗な画像（冠動脈性状）を撮影するために、検査1時間前に放射線科受付に来ていただき、血圧や脈拍など確認させていただいた後、最適な状態に導きま

す。検査時間は約6秒間ですが、画像の再構成に時間がかかるため、検査結果は後日担当主治医から説明をさせていただきます。

## 就任のご挨拶



血液・呼吸器・腫瘍内科  
教授

木村 晋也

佐賀大学では、これまで血液内科および呼吸器内科が独立して運営されておりました。またがん治療はきわめて急速に進歩しています。より迅速に対応するために、診療科の垣根を越えた腫瘍内科が必要となつてまいりました。そのため、本年4月より新たな講座として血液・呼吸器・腫瘍内科がスタートし、私が教授としてこれらの部門を担当させて頂くこととなりました（外来は従来どおり、それぞれ血液内科、呼吸器内科を受診していただければ結構です）。

私は、昭和61年に自治医科大学を卒業し、臨床研修後より、京都の僻地中

核病院および診療所で、「なんでも診る」総合内科医として計8年間勤務しました。その後、オーストラリアおよびドイツへの留学を経て、平成14年より京都大学で7年間勤務いたしました。血液・腫瘍内科として臨床の研鑽を積みとともに、白血病および肺がんを含む固形がんに対する新規治療法の研究開発も行ってまいりました。



看護部長  
長谷川正志

4月から田中洋子看護部長の後任として群馬大学医学部附属病院より赴任いたしました長谷川です。九州の地での仕事は初めてということもあり、不安と期待でいっぱい状況の中で、看護部長として努めることの責任の重さをひしひしと感じているところであり

患者さんが求める安全で質の高い医療サービスを提供するには、各部門が持つ高い能力を、いかに効果的に発揮するにかかっていると思えます。質

の高い医療サービスの提供は、各部門の連携を強め、チームとして医療を展開することが重要となってきます。調和のとれた部門間の連携を構築することが、より効率の良い医療サービスにつながるかと考えております。中でもチーム医療を担う一員として、最も患者の側にいることが多い看護職の果たす役割は大きいと思えます。より充実した医療を患者さんに提供できるように、常に全体を見渡し業務を改善し環境調整を図るとともに、変化の激しい医療の現状に適切に対処できる柔軟な体制と、迅速な意思決定ができる看護部組織を構築したいと思えます。最高の医療と充実した看護サービスを提供し、地域から信頼される魅力的な病院とするために、ご支援をお願いいたします。

# 病院HP

## リニューアルのお知らせ

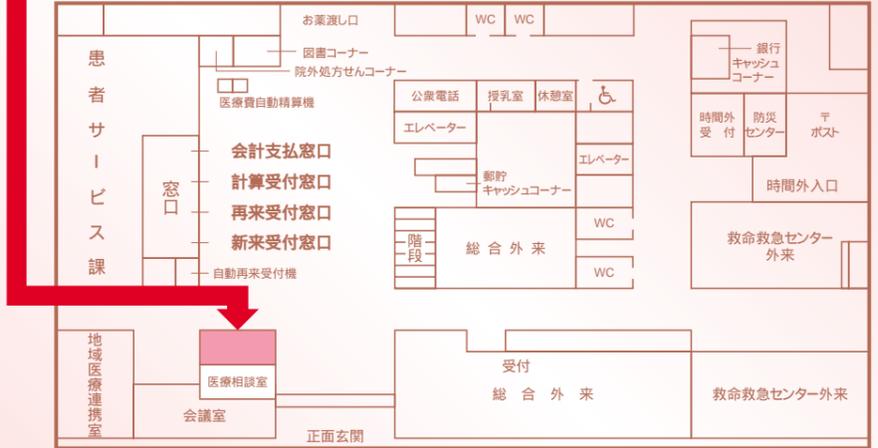


佐賀大学医学部附属病院ホームページを平成21年1月より、リニューアルしました。患者さんにとって、より分かりやすいホームページを目指しております。新しくなった病院ホームページを是非ご覧ください。

URL <http://www.hospital.med.saga-u.ac.jp/hp/>



## 画像情報処理 サービスセンター のご案内



本院では、平成20年11月に地域の保健・医療・福祉施設等との間に、医療画像等の授受をスムーズに行い、本院との医療連携体制を充実させることを目的とし、画像情報処理サービスセンターを設置しました。

主な業務の内容は、患者さんが外来時に紹介状と共に持参されたCD・Rの画像をいち早く電子カルテに取り込み、その患者さんの病状把握や診断並びに治療方針の決定などの外来診療がスムーズに行えるためのお手伝いです。また、本院から患者さんを他の医療機関に紹介するときなどに、患者さんに必要な電子カルテの画像情報を出力してCD・Rを作製し、紹介先の医療機関でスムーズに診療が行えるよう連携の手助けをしています。

今後は更に、画像情報処理サービスセンターの仕事内容を充実させ、患者さんのスムーズな診療と他院との医療連携協力体制強化のお役に立ちたいと思っております。

**入院時には持たなくなったお薬を確認させて頂いてください。おくすり手帳も持たせてください。**

薬には、規則正しく飲み続ける薬や、予定された手術や検査の為に一時中止する薬などがあります。入院してからも安全にお薬を続けて頂くために、持ってきたお薬は、目薬や湿布薬などすべてのお薬について、薬の名前、いつ何個ずつ飲んでいくか、何日分のお薬かを、薬剤部窓口にて薬剤師が確認させて頂いています。薬の内容が詳しく書かれています。保険薬局の『おくすり手帳』なども、薬と一緒に持ち下さい。



## 表彰 受賞 杉森賞(診療部門)

当院では、毎年診療部門に貢献のあった職員を表彰しています。平成20年度は下記の4名が受賞しました。



看護部 有馬 浩史 (副看護部長)  
 薬剤部 持永早希子 (製剤主任)  
 MSW (メディカル・ソーシャル・ワーカー) 林 ちづる (主任)  
 (特別賞) 放射線部 北村 茂利 (診療放射線技師)



**5月12日は「看護の日」**

『看護の心をみんなの心に』をメインテーマに、毎年楽しい行事を開催しています。昨年はアロマオイルを使用したハンドマッサージや、健康相談コーナーを設けて外来・入院の患者さん、合わせて約400名以上の参加がありました。今年もいろいろな行事を準備しています。

看護部 内田 順子

## 病院長室から

宮崎 耕治

病気になるって長期入院を余儀なくされた途端、生活空間が無機質の箱の中に切り取られてしまします。病と効率的に闘うためには止むを得ないことではあります。その限定された空間に緑や絵画のような芸術があれば、癒されることでしょうか。佐賀大学病院にも少しずつその癒しの空間を広げていきたいと思っています。

前回、故萩原俊樹画伯の絵を紹介したいと思っております。塚本画伯は佐賀在住ですが、その版画や油絵は全国にファンがいて各地で展覧会が開催されています。詩人の谷川俊太郎さんもそのひとりです。塚本の黒」として絶賛されています。塚本画伯は「昨年夏、パリ、モンパルナスにある、ムルロー工房」に3ヶ月通い、作品を仕上げてきました。この「ムルロー工房」は「アトリエ・モンパルナス」とも呼ばれ、ピカソや、マチス、シャガール、ミロ、ブラックなど争々たる近代美術の巨匠たちが版画を作った伝統のある工房です。日本人では萩須高徳、池田満寿夫など才能を認められた画家しかここで制作を許可されていません。今回、塚本画伯がここで制作したりトグラフ7点を寄贈頂きました。この7点を同時に見ることが出来るのは他にパリ国立図書館しかありません。塚本画伯に院内を見てもらい、2階通路に5点、3階通路に2点展示させて頂きました。2階は小児科に入院している子供達に空想の世界を広げてもらいたいという気持ちです。塚本画伯の造形のひとつひとつが見る人によっていろいろな空想を呼び起こし、見飽きず、お年寄りから子供までしばしの時間癒してくれることでしょうか。



リトグラフを寄贈いただいた塚本画伯

